

事業名		代表者 所属	山口大学大学院創成科学研究科
17 KJ-004		代表者	准教授 新沼 浩太郎
山口大学理学部サイエンスワールド		開催地	山口市
2017		助成金額	10万円
活動概要	<p>日時 2017年11月12日</p> <p>場所 山口大学 吉田キャンパス 第2学生食堂</p> <p>対象 幼児・小中高生・一般市民</p> <p>参加者(人) 1,159人 内訳(小中高生; 349人、小中高の先生; 不明)</p> <p>内容 大学生による科学を紹介する企画ブースの出展、実験室や研究室を訪問して実験を体験するツアー、博物館等との連携による出展。</p> <p>発表;24件</p>		

### 事業の目的・ねらい

大学の研究活動を、教員と学生が主体となって企画する様々な展示・体験を通じて、地域住民に楽しみながら理解してもらうことによって科学の啓発促進を行い、子供たちの理科離れの解消に貢献する。

### 事業の概要

出展ブース数: 17 (理学部学生 13、学外博物館 4)

来場者数: 1,159名

(のべ人数 内訳: 一般 417名、小学生 322名、未就学児 139名、中高生 27名他)

#### 出展内容

- ・電気と磁石! 見えない力を体験しよう
- ・シャボン玉であそぼう
- ・手でつかめる不思議な水! ?
- ・図形であそぼ!!
- ・めびうす いんざわーど
- ・ふしぎな砂で遊ぼう!!
- ・水性ペンで花を咲かせよう!
- ・目指せ! 君もチリモンマスター! ~海の小さな仲間たち~
- ・カルデラって何? ~山を噴火させて形を変えよう~
- ・並の波じゃない!? 津波のしくみ
- ・飛ばせっ! マグヌスカップ(出展: 教育学部理科教育講座の学生)
- ・葉っぱの葉脈しおりをつくろう(出展: 教育学部理科教育講座の学生)
- ・山口情報芸術センターYCAM × 山口大学理学部(β)
- ・かんたん工作「すつとび! シャトル」(出展: 防府市青少年科学館ソラール)
- ・しらべよう! 私たちをささえる小さな生き物たち(出展: 岩国市立マイクロ生物館)
- ・体験講座「ホネホネウォッチング」(出展: 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム)
- ・博物館がやってきた!(出展: 山口県立山口博物館)

また、理学部ミステリーツアー(理学部内を巡りながら実験を行う科学アトラクション)は2コース7実験室を出展した。

## 成果・効果

来場者数は1,159名(内訳:未就学児139名、小学生322名、中高生27名、一般417名他)であった。実験室を訪問し眼前で科学実験・体験アトラクションを行うミステリーツアーは昨年同様、同時に2つのコースを実施することで希望者ができる限り参加できるよう企画の拡充を行った結果、300組を超えるツアー参加があった。また今年度の新しい試みとして理学部の研究室の研究内容を一般の方々へ“分かりやすく”伝えることを目指し、山口市情報芸術センター(通称:YCAM)とのコラボレーション企画を学生主体で実施したところ、大変好評であった。

来場者アンケートによると、

- ・来場者の約1/3は過去にも来場しており、サイエンスワールドは地域に根付いたことが読み取れる。
- ・約96%の来場者が「また来たい」と答えており、(知識の羅列ではなく)来場者の手で行う科学実験・目前で繰り広げられる科学体験による素直な驚きなどの期待に応えることができたと自負する次第である。
- ・来場者の約1/4は山口市外(主に山口県下の防府、下松、宇部を筆頭に福岡、島根まで)から来場しており、山口大学理学部の科学研究の成果を多くの方々に広く還元する機会となった。



YCAM とのコラボブース



ミステリーツアーでは、普段は入ることのできない大学の実験室をめぐるしました



「カルデラって何？」



「ホネホネウォッチング」  
(土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム)